

研修報告書

平成26年 9月20日

場所 AP 渋谷道玄坂

渋谷シネマタワー11階

H会議室

研修題目

保育園における子育て支援

～新制度発足を前に、保育園・保育士に新たに期待される
役割～

講師名

研修内容・学んだ事・感想

☆育児支援・子育て支援とは子どもの成長発達を支援するだけでなく、それを支える保護者を支援することである。

それには、新制度に関心を持つことが大事となる。

社会制度というのは、「税」と一体化

今までは、①医療 ②年金 ③介護のみ ③経費

④として 少子化対策が入り ④経費になる。

これまでの背景として

1970（年型）の年代までは右上がりの成長を遂げてきた。

男性が働き、女性は家事育児、介護（しかし今よりも10年くらい寿命は短い）

退職後には年金で十分に暮らせた世の中であった。

1990（年型）以降、少子化が進み若い世代が減り高齢者が増えてきた。さらに女性も働き始めた。

この時から、給付は高齢者、負担は若者の縮図が崩れ始めた。

高齢者も負担する、全世帯負担型に変更し、こどもの支援社会保障の根底は「子ども」という声が上がってきた。

そして、経費の考え方として、①少子化対策が最優先として課題となっていった。

「関連3法」が成立するまでが大変だった。（24年の蓄積の成果である）

政権が変わり、途中で途切れるのではないかなど。

政権が変わると、これまで積み上げてきたことがご破算になることが常であったが、重要なところやそのまま残してもらえたところもあり、進めてくることが出来た。

今社会的な現在の考え方として、（政権の変化から）基本は親でありながらその責任を社会も支えるという事が明言されている。現在の政権も以前の政権が打ち出したものもそのまま盛り込まれている部分もあり、それはこれまでにない事である。

保育に欠けるではなく、保育の必要性と考える。家庭にいる子も必要性があり、保護者が子育てに喜びを持つことが必要である。

以前の政権の時には、総合こども園という事が打ち出されたが、1000か園に満たない設立となった。

幼保一元化のようであるが、建物は一つでも入口がそれぞれ違う。中も幼稚園部分と保育園部分が分

かれ行きかうことが出来ない。電球ひとつ壊れても、どちらで壊れたり問題があるかによって書類や提出先が違うなどとても大変であった。

これからの認定こども園は「内閣府」であり「施設型給付金」という形になりそのような問題が、怒らないようなシステムになった。(個々は大きな違い)

昭和 21 年 22 年が第一次ベビーブームで 4, 32 という数字

その後第 2 次ベビーブーム 2, 16

丙午の時に一時的に減り、それ以降なだらかに減少を続けてきた。

平成 2 年に 1, 5 7 になり、緊急保育対策 5 か年事業 「エンゼルプラン」が打ち出された。

平成 6 年には「新エンゼルプラン」が発令される。

平成 19 年 子どもと家族を応援する日本を重要課題とした政策、次世代育成支援推進として打ち出された。

子ども子育て新システム制度案要綱が 2010 年 6 月に、すべての子どもに良質な生活の環境を保障し、子どもを大切にする社会を作ろうという事で大きく動いた。

いろいろな施策が打ち出されているが、子育ての現状はまだまだ依然として厳しく、問題は解決していない。

- * 育児不安、子育て家庭に孤立、虐待の増加
- * 仕事か子育てか 二者選択
- * 威勢の子育て参加の不十分
- * 貧困からくる格差
- * ひとり親の問題
- * 小児慢性特定疾患や難病の子どもとその家族の支援

子育て支援をどのように知らせているか? 問いには、自治体からは
→ハンドブックを作っている。

HP にのせてある。

という回答のところばかりである。

それでは知らせている事にはならない。

「そこ」に行けば、どうしたらよいかを解消できること w 知らせることが大事ではないかと考えている。

これからの保育士は「この問題には、どこへ行けばよい」という事も知らなければならない。

一人で、あるいは保育園で解決できない場合もある。

また、社会科学にも知識を広げることが大事。保護者の仕事にも関心を持つことである。

保育園の言語と社会の言語は違う。→抽象化、明確、起承転結

↓

ゆったり具体的に何度でも

社会の哲学・・・悲しみは分かち合う、分かち合う事こそ喜びがある (スウェーデンの考え方)

国の施策を今まで繰り返しいろいろな形で聞いてきました。今回これまでの自分の理解の無さにダメ出しを感じながら大日向先生の講演を拝聴させていただきました。

何故「育児支援」がこれほどまでに打ち出されてきたのか？の背景を年代を追って、社会の情勢、移り変わりを政府としてどうしたら解決してゆけるのか、その時々で何を最優先に考え実行していくのかという事を、しっかりと頭に入り込むことが出来た時間だったと感じています。

国の施策エンゼルプランから現在の移り変わりに至るまで、本当に長い年月をかけてまとまろうとしているのだなど、感慨深くもありました。

エンゼルプランのころは、なぜ保育園の目の前の園児達で精いっぱいなのと思う中、休憩時間内に保育園アピールのピラを公園で配ったり、時間外で（手当などでません）200部ポストに入れてきたり、個別訪問に行ったり。急な緊急保育対策5か年事業計画が打ち出され、保育士はあれこれがんばってきました。

それがいつも間にか、下火になり、次の新エンゼルプラン。この時は園庭解放などを中心に保育園に来ていただく、行事をお知らせするなど多少広がってきたかという感じでした。

その後も、園で独自のものの取り組みはありましたが「力を入れて」という事もなく、研究会や選出された職員だけが活動をするという形であったと思います。

それが今は職員一人一人が考えなければならない時代になり、保護者対応についても十分に支援という気持ちを持って保育にあたる事が課せられている現状となりました。

本日参加できなかった職員も是非聞いていただきたかったです。

保育支援（子育て支援は何のためにするという意義がとても伝わってくる講演でした。）

情勢により法律は変わるものと改めて感じました。（できればよい方向で）

20年以上かけて作り上げられてきたという事を、これからの若い保育士さんたちが理解するのはとても困難であると思います。今の現状を知り、少し過去に興味を持ってもらえたらと・・・思います。

参加した職員の中で「そうだった」と実感できる人は何人いたのだろうかと思いました。